

# 2023 年度の学校評価

|                         |  |  |  |
|-------------------------|--|--|--|
| <p>本年度の重点目標</p>         | <p><b>1 建学の精神「社会で有為な人材の育成」に向けた教育活動の実践</b><br/>                 (1) 最上位目標に基づいた教育活動の推進 (2) 「社会で有為な人材の育成」に向けた生徒募集の推進 (3) スクール・ポリシーの策定<br/> <b>2 働き方改革の継続</b><br/>                 (1) 業務のスクラップアンドビルド (2) 業務の平準化<br/> <b>3 ハラスメントのない職場づくり</b><br/>                 (1) 内規【1105】ハラスメント防止ガイドラインの順守 (2) 関係資料を活用した研修<br/> <b>4 当面の具体的課題</b><br/>                 (1) 2024 年度入学生からの大学校舎 F 棟・G 棟への移転 (2) 新体育館構想検討 (3) 課題と関連分掌等</p> |  |  |
| <p>担当</p>               | <p>重点目標</p>  | <p>具体的方策</p>   | <p>評価結果 (次年度に向けた課題)</p>  |
| <p>学習指導部</p>            | <p>学力の向上と授業の充実<br/>                 (1) ベル着の習慣化と授業改善の取り組みを土台とした授業規律の確保<br/>                 (2) ICT 活用の授業実践による学習理解度の向上<br/>                 (3) 欠課時間数の多い生徒への早期対応と改善に向けた取り組み<br/>                 (4) 学力不振の生徒への早期対応と改善に向けた取り組み<br/>                 (5) 転退学者を出さないための早期対応と改善に向けた取り組み</p>   | <p>(1) 授業改善のためのフローに沿った改善指導の促進と迅速な対応<br/>                 (2) 教科ごとによる ICT 活用促進に向けた授業の実践と教科会議での情報共有<br/>                 (3) 欠課時間数の多い生徒に対する教科・担任・学年の連携による指導の徹底<br/>                 (4) 学力不振の生徒に対する教科・担任・学年の連携による指導の徹底<br/>                 (5) 担任・学年・教科等の連携による細やかな指導と支援体制の構築</p>  | <p>(1) 概ね良好であった<br/>                 (2) スタディサプリなどの積極的な活用が見られた活用<br/>                 (3) 担任把握が不十分なことがあった<br/>                 (4) 各教科で尽力している<br/>                 (5) 早期対応を含めて効果的な対応策を模索中</p>   |
| <p>情操教育部</p>            | <p>(1) 学習と部活動、学校行事に集中して取り組み、活力ある学校作りを推進する<br/>                 ①生活指導 (大同三訓の実践)<br/>                 ②各種委員会の活性化<br/>                 ③ボランティア活動の活性化</p>  | <p>(1) 遅刻指数 (総遅刻数/全校生徒数)<br/>                 【目標】1.0 以下<br/>                 【昨年度】1.4<br/>                 (2) 第 2 段階以上の特別指導者数 (延べ)<br/>                 【目標】30 名以下<br/>                 【昨年度】30 名</p>  | <p>(1) 遅刻指数 (1 月末現在) 1.8<br/>                 コロナ禍の影響による学校への登校意識の変化も影響している。<br/>                 (2) 1 学期 25 人<br/>                 2 学期 14 人<br/>                 3 学期 9 人<br/>                 1 学期に特別指導が集中した。<br/>                 ◆生徒保護者アンケートや全生徒による対話の時間「Do～dai」をもとに、頭髪規程について学校生徒保護者で考える取組をスタートさせた。2024 年度始業式で生徒と共有したい。</p>   |
| <p>情操教育部<br/>(健康安全)</p> | <p>(1) 環境指導<br/>                 (2) 環境安全<br/>                 (3) 健康管理</p>  | <p>(1) 環境指導<br/>                 ①校内・学校周辺環境美化のボランティア活動を行い、奉仕の精神を養う。(1 年生 LHR 利用)<br/>                 ②授業後の保健美化委員による校内美化活動 (手洗い場の清掃)。<br/>                 授業後のボランティア委員による校内美化活動 (ゴミ集積場での分別・記名確認)。<br/>                 (2) 環境安全<br/>                 ①防災組織・火元責任者・緊急時対応策などシステムを拡充する。<br/>                 ②環境安全点検の強化。<br/>                 (3) 健康管理<br/>                 ①生徒の健康管理と傷病への迅速な対応を図る。<br/>                 ②心身ともに健康な人間形成を目指す。</p>  | <p>(1) 環境指導<br/>                 ①計画的に実施することができた。<br/>                 ②委員会活動であるため生徒会に引き継いだ。<br/>                 (2) 環境安全<br/>                 ①防災訓練を計画通り実施することができた。また、今年度は津波による避難も実施することができた。<br/>                 ②安全点検を報告したクラスは 40.2%にとどまった。<br/>                 (3) 健康管理<br/>                 ①保健室での対応は迅速であった。<br/>                 ②学校生活アンケートの回答率が 80.8%であった。提出率 100%のクラスが多数ある中、一部のクラスで提出がよくなかった。</p>   |
| <p>情操教育部<br/>(生徒会)</p>  | <p>(1) OECD「2030 年に向けた生徒エージェンシー」に則った生徒議会・執行委員会・各種委員会活動の自立化 (昨年度からの継続課題)<br/>                 (2) 生徒会を盛り上げる工夫を凝らす<br/>                 (3) 生徒会役員選挙のさらなる活性化</p>  | <p>(1) 昨年度と同じ目標となるが、生徒会活動の更なる自立化に向けて課題の継続を行う。生徒自身が本校の現況をみつめ、よりよい学校、よりよい学校生活、地域をはじめとする様々な人々への貢献のあり方などを考え、行動を提案し、実践していくことができるようにしていきたい。<br/>                 今年度から通学バッグの自由化が実現した。自分たちで学校生活を作るという意識が実感できたはずである。これをきっかけに生徒議会、各種委員会の活動をさらに活性化させていきたい。<br/>                 (2) 地域、社会との関わりを通して大同生としてどのように貢献できるかを考えられるような活動を考え、実行していきたい。昨年度は南警察署との合同安全啓発運動や緊急支援募金の実施など、地域・社会貢献の活動が少しずつ増えている。今後も学校行事が、生徒が地域社会に貢献する場となるよう、生徒会一丸となって取り組んでいきたい。<br/>                 (3) 生徒会役員選挙改革によって 1 人ひとりが一票の重みを感じるとともに、国政選挙に関心を持つ良い機会として、今後も取り組んでいきたい。まだまだ選挙に向けた広報活動等の活性化は不十分であり、候補者が自らの声をどう発信し、何を実行するか、そこに焦点を充てていきたい。</p> | <p>(1) 執行委員会の活動は年々活性化しつつある。今年度は学校の外にも目を向け、他校の生徒会との交流会も実施した。各種委員会活動の自立化については、まだまだである。<br/>                 (2) 今年度、目安箱「Drop box」と自由な話し合いの場「Do～dai？」を設置し、生徒 1 人ひとりの声を届きやすくした。今年度施行された「子ども基本法」には、「子どもが自由に意見を表明する権利」がうたわれている。学校内外の活動について生徒と教員がフラットな立場で話し合い、より良い学校づくりに向けて一体となって今後も取り組んでいきたい。<br/>                 1 学期は「携帯電話」、2・3 学期は、「頭髪規定」について対話を重ねた。生徒の声に耳を傾け、少しでも取り組めそうなことは実行していきたい。そうすることで、生徒の当事者意識を刺激していきたい。<br/>                 なお、先述の他校の生徒会との交流会ではこの「Do～dai？」が特に注目された。本校の特色として今後も発展を続けていきたい。<br/>                 (3)<br/>                 あらかじめ政見放送を録画し放送するなど、候補者の宣伝活動に徐々に創意工夫が見られてきた。新選挙制度になり 3 年が経つので、投票率の推移や候補者の宣伝活動などを見直し、中長期的な計画の元、発展させていきたい。<br/>                 環境は徐々に整いつつある。あとは、生徒 1 人ひとりの声を実際に行動に移すこと。勇気をもって実行することが求められる。</p> |
| <p>進路指導部<br/>(進学指導)</p> | <p>(1) キャリア教育の確立<br/>                 ⇒ 総合的な探究の時間と連動した年間計画と指導方法の確立。<br/>                 (2) 高大連携の強化<br/>                 ⇒ 情報交換を密にした高大連携の見直しと立て直しと情報の透明化、推薦規定の抜本的見直し<br/>                 (3) 校内推薦規定の見直し<br/>                 ⇒ 新カリキュラム、評価基準の変化に対応した校内推薦規定の抜本的な見直し<br/>                 ⇒ 大学入試改革により、各学校の入試内容の</p>   | <p>(1) 外部講師や外部資料など、様々な媒体を利用しキャリア教育を確立していく。<br/>                 (2) 高大連携のための情報共有を部内で行い、しっかりと議論する場を設ける。<br/>                 (3) (2) 同様に、情報共有と、議論する場を設ける。<br/>                 (4) 外部模試の見直しに合わせて、教員が金銭を扱うことの軽減を図る。</p>  | <p>(1) 「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育の推進は概ね成功であった。<br/>                 (2) 高大連携のための情報共有を部内で行うことはできた。更に高大連携を深めていきたい。<br/>                 (3) 校内推薦規定の見直しを図ったが、被推薦資格の項目については更に議論を進めていく。<br/>                 (4) 進路行事に関してはオンライン決済システムの拡充化を図ることができた。他分掌や部活動が来年度から当該システムに参加する事前準備会議を持った。来年度は活用機会がさらに拡大することになる。</p>  |

|                 |   |  |   |
|-----------------|---|--|---|
|                 | 変化に伴う校内推薦規定の抜本的な見直し<br>(4) オンライン決済システムの周知   |  |   |
| 進路指導部<br>(就職指導) | (1) 一次合格率の向上<br>(2) 大手企業の合格者数の増加<br>(3) 「職業観」の育成と「学校幹旋就職者」に対する事前指導<br>(4) 離職率の低下<br>(5) 学校幹旋就職率100%の継続 (年内実現)<br>(6) インターンシップの充実  | (1) 「学校幹旋就職」に対する事前指導、学年会への情報伝達<br>(2) 外部講師による「職業講話」、「就職説明会」を通じ、就労意識の向上を図る<br>(3) 就職試験に対する指導 (応募書類作成、筆記、面接、グループディスカッション等) 評価基準と方法   | (1) 生徒・保護者向けの就職説明会、学年会など情報伝達をしっかりとできた。<br>(2) ハローワーク講師による講話、受講後のレポート提出、職業適性検査実施など就労意識向上を図ることができた。<br>(3) 就職試験対策指導 (応募書類作成や面接指導) は多くの教員の協力で充実したものができた。生徒自身の取り組み状況を更に向上させたい。  |
| 総務部             | (1) 配信機材を活用することで式典・行事をさらに充実したものにしていく。<br>(2) PTA行事の新しい形態をPTA役員と連携し確立していく。   | (1) 配信機材の操作に長けた教職員からの意見を反映し、協力して取り組む<br>(2) PTA幹事会において積極的に意見交換を図る。   | (1) 配信機材を活用した式典(始・終業式等)や行事(PTA総会等)がたいへんスムーズに行えるようになった。来年度は1年生が大学内のF棟G棟での生活をスタートさせる。入学式を4月2日に大学体育館で実施するなど、新たな取組が増える。一年間試行錯誤が続くと思われるが、より良いものにしていきたい。<br>(2) PTA文化祭、PTA研修旅行、PTA大同大学見学会など、PTA幹事の間で積極的な意見交換がなされ、現状に合わせた行事運営ができた。2024年度1年生保護者のPTA幹事・役員について、入学者説明会で協力いただけるかを質問するアンケートを実施した。幹事をやっても良い、役員をやっても良いというご回答を多くいただき、今後の調整の見通しを立てることができたことになった。           |
| 図書研修部           | (1) 図書管理システム専用パソコンを使用し、その円滑な運用を図る。<br>(2) 引き続き、朝の読書の定着と充実を強力に推進する。朝読用図書貸し出しの増加を図る。<br>(3) 図書室の自習室としての利用促進を図る。<br>(4) 生徒図書委員会の機能充実を図り、生徒の図書室活用を促進する。<br>(5) 図書館だより「ライブラリー」の定期的発行を通じ、読書に対する啓発活動を推進する。<br>(6) 教員の授業等での新聞データベースの活用など、図書室利用の促進を図る。<br>(7) 教員研修を充実させ、学力と教養ある生徒の育成を図る。<br>(8) 保護者による授業参観について、より効果的な方法の実施を検討する。 | (1) 朝読定着のために、毎朝校舎内を巡回し、生徒・担任へ喚起を促す。また、行事等での中止は極力避ける。<br>(2) 生徒図書委員による毎昼放課と業後の指導当番を決める。<br>(3) 新聞のデータベースを利用し、年1回以上図書室での授業実施や、課題など調べ学習実施の促進を働き掛ける。<br>(4) 経験者研修の5年研、10年研の充実を図る。<br>(5) 保護者による授業参観は、1年生対象11月に、それぞれ自由参観形式で実施する。  | (1) 朝の10分間の取り組みはクラスによって差があった。来年度から1年生がF棟で高校生活をスタートする。校舎間移動時間を考えて日課表を変更するため朝読は今年度限りとなった<br>(2) 生徒図書委員会の機能充実を図り、生徒の図書室活用の促進をすることは不十分であった。<br>(3) 図書館だより「ライブラリー」の定期的発行等により、読書に対する啓発活動を推進できた。自習室としては多く利用された。<br>(4) 経験者研修の企画・推進はできたが、授業参観の参加者数が少ないなどの課題がある。十分に達成できなかったこと。<br>(5) 保護者による授業参観は、1年生保護者対象に実施できた。大学や法人本部からも多くの参加があり、好評価と指摘ともにあった。指導案の作成などをスクラップした。 |
| 工務部             | (1) 全員受験における資格検定試験の合格率向上<br><br>(2) 社会で通用する国家試験・技能試験等の推進と継続性<br><br>(3) 新カリに向けて実習内容の在り方と方向性<br><br>(4) 選コースの在り方と方向性<br><br>(5) 修技館機能移設による実習内容の刷新  | (1) 効果見込める学習方法や終礼テストの内容変更と対策プリント等の活用を目指す。<br>(2) 周知徹底と学習指導体制・環境の強化、教授側のスキルアップを目指す。まら、外部講師等を通して技能伝承を図る。<br>(3) 教科書や社会で通用する内容に刷新を目指す。<br>(4) DU進学及び大手企業就職希望者を有するコース編成の検討を図る。<br>(5) 新規実習へのスムーズな移行と生徒への興味関心の有無の検討と実現を図る。  | (1) 全ての資格検定試験で合格率7割以上を目指した。試験日が学校行事や定期考査等の時期と重なったことも影響して5割強の合格者数となった。<br>(2) 旋盤・フライス盤・溶接は、外部講師を招き技能士取得のためにノウハウを教授していただいた。<br>(3) 教科書改訂に伴い一部の教材資料等を刷新した。今後も改訂余地があり科目については継続的に編成していく。<br>(4) 全てのコースについて成績についても考慮して編成した。DU進学コースの希望者の減少が激しくコースの存続等についても議論が必要。<br>(5) 移設計画が進む中で5テーマほど変更・刷新が必要で、担当者の割り当てを行い継続的に改定を行っている。  |
| 情報部             | (1) 今年度情報機器の定期更新が滞りなく実施できたか。<br>(2) 来年度情報機器の定期更新が滞りなく立案できたか。  | (1) 意見の収集、更新情報の公開を行い、情報を共有する。<br>(2) 意見の収集、更新情報の公開を行い、情報を共有する。   | (1) 意見収集と更新情報の公開を通じて情報を共有した。これにより、意識共有が図られ、定期更新がスムーズに実施された。今年度の情報機器の定期更新は法人情報室との連携で円滑に実施された。<br>(2) 意見収集と更新情報の公開を行いました。これにより、全体で来年度の更新計画を適切に立案するための情報が共有され、必要な対策が検討された。ただし、一部の情報漏れや意見の不足が見られ。そのため、来年度の立案プロセスにおいて、情報の透明性を高め、意見収集の機会を広げる必要がある。  |
| 広報部             | (1) 一定の合格基準を堅持し、学則定員480名の入学者の確保。<br>(508→459→459→475→517→456)<br>(2) 推薦入試で420名の確保。<br>(411→393→388→422→413→383)<br>(3) 一般入試志願者1,500名の確保。<br>(1,613→1,579→1,545→1,438 → 1,579 → 1,698)<br>(4) 特進25名(2023年度27名)、進学選抜110名(2023年度112名)の確保。  | (1) 重点校重視の中学校訪問を展開、春のリーフレット、秋のオープンスクールチラシは生徒全員に配布。<br>(2) 重点校は必ずアポ取り訪問をし、学年主任、進路主事と直接面談をして情報交換に努める。<br>(3) 各担当者は2023年度中学校別推薦志願者数の増減を踏まえた上で、目標値を立てて渉外に当たる。<br>(4) 担当者は、他の私学と比較して、本校の長所、短所は何かを客観的に把握し合い、広報活動を行う。<br>(5) 本校進学実績と現状の生徒の報告や、オープンスクールなどで本校の特進クラスの良さをアピールする。<br>(6) 併設校の有利な面を前面に出し、進学選抜 | (1) 学則定員480名の入学者確保については、昨年456→本年度は479名と改善された。普通科は3年連続で定員240名のところ290名を超えた(293名)。工業科は昨年より20名増加したが、定員240名のところ186名であった。<br>(2) 推薦入試で420名の確保は達成できなかった。(昨年383名→本年度388名) 公立高校の推薦入試が一般入試から分離し早まった影響もあると思われる。<br>(3) 一般入試志願者1,500名の確保については2年連続達成できた。(昨年1,698名→本年度1,773名)<br>(4) 特進25名、進学選抜110名確保は、当日の成績による調整を行い達成した。<br>(昨年特進27名→本年度27名、進学選抜110名→本年度115名)          |

|               |   |   |  |
|---------------|---|---|--|
|               |   | コース及び、進学文理コースの良さをアピールする。<br>(7) 施設の充実と、授業環境の良さをアピールする。  | 引き続き、一定の合格基準を堅持しつつ、学則定員 480 名以上の入学者の確保を目指す。<br>課題 1・・・工業科生徒の確保<br>課題 2・・・女子生徒の確保   |
| 普通科<br>第 1 学年 | (1) 最上位目標「すべての生徒に汗と愛の経験を」を意識した行動を促す。<br>(2) 学年目標を意識した行動を促す。<br>「自分の良いところを積極的に認められるようになる」<br><br>(3) 基本的な生活習慣を確立させる。<br><br>(4) 学習習慣を確立し、真剣に取り組み、仲間と学び合う姿勢を養う。   | (1) 自律した行動、他者を尊重、知識・技能の習得を意識した判断、声掛けをする。<br>(2-1) 日常生活や探究学習を通して、自身の長所や得意を発見し、それらを積極的に伸ばしていく。<br>(2-2) 定期考査前に目標を設定させ、定期考査後には振り返りを行うことで、改善・成長させていく。<br>(2-3) クラス・学年団での団結・連携はもとより、家庭と学校の連携を図り、友人や家族、教員など信頼できる人に積極的に相談できる環境を提供する。<br>(3) 日常の声掛け、家庭との連携を通じて意識向上を図る。<br><br>(4) スタサブを利用しながら、生徒の取り組み状況を把握しきめ細かい指導を目指す。 | ◆生徒アンケートをもとに評価する。<br>(1) 「自律した行動」「他者を尊重」は約 90%の生徒ができたとして評価している。一方「知識・技能の習得」は 80%に僅かに届かなかった。<br>(2) 自身の長所の発見・伸長に関しておよそ 70%の生徒が実感していた。特に自発的な行動や他者との関わりの面で成長を実感した生徒が多くいた。考査前の計画・振り返りに関しては、約 70%の生徒ができたとして評価しており、さらに計画・振り返りをしたことで改善・成長を実感した生徒も 70%以上いた。また 80%近くの生徒が学校生活に満足していると回答している一方で、そうでないと感じる生徒も 14%いた。これらの生徒の声を拾い、よりよい環境づくりに努める必要がある。<br>(3) 欠席指数 4.41、遅刻指数 1.63(共に 1 月末現在)と欠席・遅刻が非常に多かった。体調管理を含めた生活習慣の確立が喫緊の課題である。<br>(4) 1・2 学期共に追試対象者が多数いた。一方で授業や時差下校などで積極的にスタディサブリを活用することが学習習慣の確立に一定の役割を果たした。今後は日々の授業や与えられた課題だけでなく、自ら進んで課題を発見し学習する姿勢を一層養っていききたい。 |
| 工業科<br>第 1 学年 | (1) 最上位目標「すべての生徒に汗と愛の経験を」を意識した行動を促す。<br>(2) 学年目標を意識した行動を促す。<br>「自分と他人に思いやりを持ち、自分のペースで小さな成功を積み重ねよう」<br>(3) 資格取得の指導を通じ、持続的に取り組む力を養い、将来への希望を明確化する。<br>全体で教室内の環境整備・美化活動を進め、学習環境を整えることを通じて学級全体の協力体制を築く。  | (1) 自律した行動、他者を尊重、知識・技能の習得を意識した判断、声掛けをする。<br>(2) 教員間のスローガンを意識していく。<br>(3) 資格取得への継続的指導体制をつくり、全員受験種目の合格率向上を目指す。  | (1) 定期的に ZOOM で学年主任から講話を実施した。効果的であった。<br>(2) スローガンを作成しカードを作って教員間で共有した。「共に成長」「寄り添う」を各教員が生徒と寄り添う気持ちで行動ができていた。<br>◆生徒アンケートを実施した。<br>①最上位目標「全ての生徒に汗と愛の経験を」がありますが、誰かのために何か行動してみた(愛)や、面倒くさいけどやってみた(汗)というような行動はできましたか?<br>少し行動できた 41%、ほんのちょっとできた 28%、行動できた 20%、あまりできなかった、7%できなかった 2%<br>②以前より、自分のことを褒める、認めることができるようになりましたか?<br>少しできた 31%、できるようになった 22%ほんのちょっとできた 15%、なかなかうまくいかなかった 15%、以前からできている 11%できなかった 3%<br>(3) 資格試験について<br>ガス溶接技能講習合格率 99.4%<br>危険物取扱者試験 丙種 31.1%<br>情報技術検定 3 級合格率 40.4%<br>概ね満足できる結果であった。  |
| 普通科<br>第 2 学年 | (1) 「汗と愛」を全ての生徒に経験させるべく、各生徒に考える機会を与え、よき実践者となるように行動変容を促す。<br>(2) 修学旅行を学びの一助としてとらえ、平和学習を始めとする事前学習を充実させて成功を収める。<br>(3) 学習習慣定着を支援し、進路に対する意識向上、目標設定の確立を促す。<br>(4) 昨年度からの「さわやか大生になる」を継続的に指導し、更なるレベルアップさせる。<br>①挨拶をする、②制服を正しく着用する、③整理整頓、教室をきれいに掃除する、④穏やかな気持ち、目標をもって授業を受ける、⑤新しいことをはじめてみる。 | (1) 年度当初の HR にて「汗と愛」、目標設定する時間を設定し、当事者意識を持たせる。その目標のために行動できる人材を育成する。<br>(2) 学年で役割を分担し、担当者を中心にして計画的に事前学習を進める。主体性を発揮できるような取り組みを持たせる。<br>(3) 担任、教科担任、進路指導部と連携し、継続した学習指導を展開する。適宜、進路の情報を学年会にて共有する。スタサブなどの学習動画も積極的に使うことを提案する。<br>(4) 日常の声掛け、HR 活動、学年集会などを通じて意識向上を図る。昨年度と同レベルから社会人に 1 歩進んだことを意識させる。                      | (1) 前向きに努力する生徒の数は、増えつつあるが、まだまだ集団として不十分である。<br>(2) 修学旅行では主体的に学習に取り組み、各グループにおいて成果物を作り上げることができた。現地で学びを深めることにつながったと思われる。<br>(3) スタディサブリを有効活動し、DUC コース生徒内で学習習慣の確立がなされた。一方、BRC コース内に全く浸透せず学力差がさらに広がってしまっている。<br>(4) 継続的に声掛けなどを行ってきたが、さわやか大生には程遠い。レベルアップできるように足踏みしている現状である。   |
| 工業科<br>第 2 学年 | (1) 基本的な生活習慣を基礎とし、社会人での第一歩として身だしなみ・最低限の言動を身に付けさせる。<br>(2) 資格取得の指導を通じ、持続的に取り組む力を養い、将来への希望を明確化する。<br>(3) 授業・実習等を通じて、学習環境および作業環境における良い雰囲気作りを徹底する。<br>(4) 周囲の雰囲気や言動を理解し、各自が自主的に行動し、修学旅行を見据えた集団行動が出来る。   | (1) 挨拶、教室巡回、HR、学年集会等を通じて、身だしなみ・時間厳守の意識をより一層高める。<br>(2) 資格取得への継続的な指導体制をつくり、各受験種目における合格率向上を目指す。<br>(3) HR での継続的な指導により、教室の美化と学習環境整備に学級全体で取り組む事を定着させる。<br>(4) 工業人としての基本的な行動を具体的に生徒へ示し、実践できるように指導していく。<br>(5) 担任団と協力し基礎学力の向上を目指し生徒をピックアップし継続的に指導していく。  | (1) 挨拶、身だしなみ、時間厳守<br>最終学年が近づくにつれ、意識が高くなってきている。<br>(2) 資格取得<br>全体を通して合格率は良いとは言えないが、個人で取り組み成果を上げた生徒が数名出ている。<br>(3) HR 環境 (環境整備)<br>毎日の清掃により掃除をすることが習慣付けられてきた。今後は生徒が意欲的に取り組めるようにしていきたい。<br>(4) 工業人としての行動<br>授業や教科担任によって取り組み方の差がある。全ての教科において同じように取り組んでいきたい。<br>(5) 基礎学力の向上<br>朝読の時間を利用して課題を配信してきたが取り組んでいる生徒が少なすぎる。担任団にもっと声を掛けてもらうべきであった。   |

|                     |   |  |   |
|---------------------|---|--|---|
| <p>普通科<br/>第3学年</p> | <p>(1)進路目標実現のため、目標設定を明確にし、個に対するきめ細かい進路指導ができる体制をつくる。</p> <p>(2)総合的な探究の活動として卒業論文を作成する。</p> <p>(3) 社会に貢献できる人材を育成する。</p>  | <p>(1)進路を意識した言動を心掛け、生徒の進路意識を高める。</p> <p>(2)適宜生徒と面談を実施し、生徒の進路目標を把握し、適切な指導を行う。</p> <p>(3) 進路指導部と密に連携を取り、情報交換する。</p> <p>(4)総合的な探究の時間で卒業論文を作成し、興味関心のある事柄、社会への疑問、進路に関連した事柄など、生徒自らがテーマを設定し、それについて調べさせ、その上で生徒自身が考えたことや気づきを文章で表現する。</p> <p>(5)進路指導と卒業論文の作成を通じて、高校三年間で考えさせてきた、自己、自他、自立、自律について考え、社会の一構成員としての生徒一人ひとりのこれからの生き方について考えさせる。</p> | <p>(1)(2)(3)は概ね満足できる結果であった。</p> <p>進路決定をするにあたり、本校の三年間でどのような事に挑戦し、どのような成果を残したのか、あるいは成長できたのか。また、進路や将来について、これまでの自分の考えと今の自分の考えを比較するなどし、自己の振り返りを丁寧に行った。</p> <p>適宜、生徒と面談を実施して進路指導を行うことができた。</p> <p>(4)(5)卒業論文の制作についても概ね満足できる結果であった。</p> <p>卒業論文を作成し、1月の授業内で各クラスから2名の発表者を選出して発表会を実施することができた。一部提出できない生徒がいたものの、多くの生徒が自己設定したテーマについて論文を書くことができた。</p>   |
| <p>工業科<br/>第3学年</p> | <p>(1) 基本的な生活習慣の継続と社会が求める人材になる為の身だしなみ・最低限の言動を身に付ける。</p> <p>(2) 進路実現に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者・・・採用試験における第1希望での内定者向上、就職率100%を堅持する。</li> <li>・進学希望者・・・大同大学進学をはじめ、希望進学先(大学、専門学校)への進学に向けた自学自習の意欲向上。</li> </ul> <p>(3) 周囲の雰囲気や言動を把握し、各自が自主的に行動し、集団全体としての行動に繋げるようにする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、教室巡回、HR、学年集会等を通じて、身だしなみ・時間厳守等のモラルの意識を徹底する。</li> <li>・進路実現において個人の将来の目標を明確にさせた上で、面接及び対策指導の実施を行う。</li> <li>・進学希望者は、学年団で協力しつつ自学自習の実施を指導し、進学に必要な知識を磨く。</li> <li>・就職希望者は、工業人としての基本的な行動を具体的に生徒へ示し、実践できるように徹底指導していく。</li> </ul>   | <p>(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻指数</li> <li>2学期末までの累計1.98で目標の1.4を大幅に上回り達成できなかった。</li> <li>・イエローカード複数枚指導を受けた生徒</li> <li>2学期末までの累計50名で30%未満という目標は達成できなかった</li> </ul> <p>(2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率100%の実現</li> <li>学校斡旋による就職率100%は実現できた。</li> <li>・ベネッセテストの試験結果(6月実施)</li> <li>国数英B以上の生徒9名で全体の5%未満となり不十分であった。</li> <li>・追試験/追認定試験対象生徒</li> <li>2学期末までの累計32名で目標下限の20%未満は達成できたが、多くの対象者がいた。</li> <li>・大同大学進学者数 20名で目標下限の20名は達成できた。</li> </ul> <p>(4)全員受験の資格試験の合格率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋盤技能検定(M)96.8%は目標下限の95%を達成できた。</li> <li>・初級CAD検定(R)は60.3%目標下限の60%以上とほぼ同じであった。</li> <li>・情報活用検定2級(H)42.9%は目標下限の40%を達成することができた。</li> <li>・色彩検定3級(S)37.5%は目標下限の40%を達成できなかった。</li> </ul> <p>(4)社会に有為な人材として、基本となる挨拶・掃除・身だしなみ等の基本的な行動が自主的にできる生徒が少しずつ増えてきた印象を受けた。今後の集団生活においても、引き続き周囲から信頼されるよう意識して実践して欲しい。</p> |